日刊自動車新聞

発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
購読料　1カ月5343円＋税
電話　東京(03)5777―2351代表
©日刊自動車新聞社2020

8月20日
（木曜日）

サプライヤー

新常態への挑戦 ＝⑤＝

電子機器事業の再編へ

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス 小野 有理社長

ダイヤモンドエレクトリックホールディングスは、電子機器事業の再編に乗り出した。事業体制の再構築に向け、鳥取工場にある同事業を新潟と栃木の拠点に集約する。新型コロナウイルスの影響で、事業の柱である点火コイルなど自動車事業の業績が低迷していることで、希望退職者募集にも踏み切る。事業のスリム化を図り、アフターコロナを見据えた事業展開で企業体質をより強化する方針だ。

（藤原　稔里）

―希望退職者募集に踏み切った理由は

「新型コロナウイルスの感染拡大により事業状況が低迷したことで、電子機器事業の弱い部分が出てきた。鳥取工場自体を閉鎖する選択肢もあったが、当工場には年間100組以上のお客様に訪問いただいており、このうち7～8割が自動車関係だ。顧客との関係性も考慮し、残すべきだと判断した。点火コイルラインを残したことで、来期からワーコンディショナーは当社の想定した数字よりも下回っているが、しっかり売れており、パワコンが下支えしている状況だ。発表した2021年3月期通期業績予想は、現在の受注状況に加え、希望退職をやりきった上での数字だ。今回の発表は1つのポジティブ・サイドである。今年度は厳しい状況が続くだろうが、来期以降は確実に良くなっていくだろう」

―新技術・新製品の研究開発の進捗は

「一部の新技術や新製品開発は、投資を抑えながら進めているが、新たな点火コイルの開発は従来通り継続している。点火コイルは当社の事業の柱であり、新技術や新製品の開発を止めることはない。以前から取り組んでいる点火コイル開発では、二酸化炭素の排出を低減しながら、燃費向上に貢献できる製品に仕上げる予定だ」

電動化分野での需要期待

「CASE（コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化）関連では、パワコンが蓄電池システムに有能だと期待しており、電動化分野で市場拡大できそうだ。また世界最小のDC／DCコンバーターの評価も依然として高い。車の品質保証の知見を持つダイヤモンド電機とパワコンの知見を持つ田淵電機の技術を組み合わせることで、当社がテーマとする『車と家をものづくりでつなぐ』を実現する」

―生産拠点の自動化に向けた取り組みは

「省人化を進めているものの、いきなり自動化すると品質保証にも関わるため、工場での自動化設備の導入にはまだ少し時間がかかりそうだ。顧客にとって重要なのは、確かな品質の製品を当社が提供することであり、まずはこれを遂げる必要がある。自動化で重要なのは、設備に不具合があった際にすぐに直せるメンテナンサーの存在であり、この育成を行っているところだ。省人化は単に人を減らすのではない。意欲のある社員には海外で活躍してもらうなど、これまでなかなかできていなかったことを実現していく」

〈プロフィル〉おの・ゆう　2001年早稲田大学第一文学部卒、同年10月経営コンサルティング会社に入社、05年に独立して中小企業のコンサルティング事業を展開。16年ダイヤモンド電機代表取締役社長、18年10月ダイヤモンドエレクトリックホールディングス代表取締役社長CEO兼グループCEO、19年1月田淵電機代表取締役社長を兼任。大阪府出身。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。
掲載日　2020年８月20日　日刊自動車新聞　３面
©日刊自動車新聞社　無断複製転載を禁じます。